



5年生「水俣に学ぶ肥後っ子教室」

5年生の「水俣に学ぶ肥後っ子教室」は、本日無事に見学を終えることができました。県内の5年生は、水俣病への正しい理解を図り、差別や偏見を許さない心情や態度を育むために、実際に水俣市を訪問しています。5年生は事前学習で、総合的な学習の時間などで課題を設定し、学習を深めていたため、子供たちの興味・関心の高さが伺えました。出発式では、今回のめあてとして「環境問題に対する考えを深く持って行動を変えていきたいです。」「貴重な一日になるので、水俣病の人権問題について、学びたいと思います。👁️帯西ブルーの心を伸ばしたいです。」など、子供たちの意欲に溢れた出発式になりました。私からは、子供たちに「水俣病は単に水俣だけの問題ではないし、終わったことでもありません。自分の生活の中で何を改めて、何を水俣から学び、これからの行動に生かすのかを考えて欲しい。」と伝えました。

午前中は水俣病情報センターで、環境学習が行われました。地球温暖化で地球の平均気温が1℃上昇しているということで、様々な環境問題を引き起こしていることを知りました。またSDGsの視点から、体験学習では、エコな物を当てる学習がありました。環境に優しい品物や分別に役立つマークを教えていただき、ゲーム感覚で環境学習の深い学びができたと思います。学習を終えた子供からは、「地球に危機が迫っていることが分かったので、早く対応することが必要だと思った。ぼくは、ごみを分別するなどしっかりと考えたい。」「身近な物にいろいろな工夫がされていることが分かった。今日学んだ環境にやさしいマークをしっかりと見ていきたい。」などと真剣に答えてくれました。

語り部の滝下昌文さんからは、胎児性水俣病として生きてこられたお話を伺うことができました。滝下さんは、幼少の頃は病院で過ごすことが多く、小学5年生頃まで入院生活は続きました。学校では、病気のことからかわれたり、いじめられたりしてくやしい思いもたくさんされたそうです。中学校卒業後は、病気の症状も、ひどく夜も眠れないこともあったそうです。19歳のとき、仲間たちと若い患者の会を立ち上げ、石川さゆりさんのコンサートを企画したそうです。周囲の反対を押し切り、メンバーとチラシやポスターで宣伝し、結果は大成功でした。このことが大きな自信となったそうです。語り部さんのお話を聞いた子供たちに感想を聞くと、「語り部さんは小さい頃から、ずっと頑張って、自分を伸ばして人生を楽しく生きようとする姿から、👁️帯西レッドの心が伸びました。」「水俣病にかかっても、リハビリを頑張って、歩けるようになったのですごいと思った。人間は望んでいることがあったら努力すれば叶うと思って、感動し、👁️帯西ブルーの心が伸びました」と述べていました。

今後は、今回の現地学習を生かした学びの発信を行うことを通して、自分たちの生活の中に潜む人権問題や環境問題への意識を高くして、そういう場面に出合ったならば、解決に向けて力を発揮できるような子供たちに育てて欲しいと思います。

